

DOCUMENT EYE

139

混合交通を観察する

WHY
歩行者優先を守るクルマは？
 ドライバーやライダーは、歩行者の安全を守って運転する必要がある。「横断歩道や自転車横断帯に近づいたときは、横断する人や自転車がいないことが明らかの場合のほかに、その手前で停止できるよりに進まなければなりません。また、歩行者や自転車が横断しているときや横断しようとしているときは、横断歩道や自転車横断帯の手前(停止線があるときは、その手前)で一時的停止をして歩行者や自



観察地点 / 東京都千代田区三崎町2丁目11付近
 観察日 / 8月13日(月曜日)
 天候 / 晴れ
 観察時間 / 14:00 - 15:30
 観察者 / 3名

信号機のない小さな交差点で歩行者の保護を行なったクルマを観察する 歩行者が横断歩道に近づいたときに 歩行者の保護を行なったクルマ49台中18台

WATCHING

歩行者の発見が遅れ、交差点内で急停車するクルマも

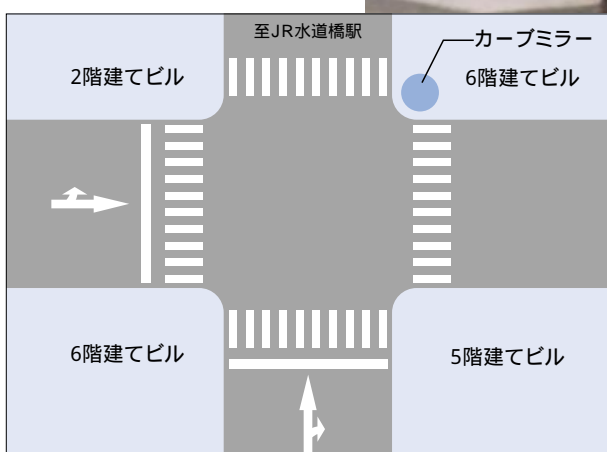
観察地点は東京都千代田区三崎町。JR水道橋駅から徒歩10分ほどの小さな交差点は、両方向とも一方通行となっていて幹線道の渋滞を避けて抜け道として利用しているクルマが多い。また、この交差点には横断歩道、停止線があり、両方向とも一時停止が必要だ。交差点付近は数階建てのビルに囲まれていてやや見通しが悪いにもかかわらず、カーブミラーの設置は1カ所のみだった。

観察日は平日の午後。付近には予備校、事務所などが多く、営業マンやOLに混じって二十歳前後の学生らしき姿を数多く見かけた。

1時間30分の観察の結果、この小さな交差点を通過した二輪車・四輪車は計228台。このうち一時停止を守ったのは38・6%にあたる88台で、残りの140台は徐行のみで交差点を通過してしまっただ。携帯電話で話しながら運転しているドライバーも10台ほど見かけた。

交差点を渡るつもりとする歩行者をドライバーが確認したのは49例で歩行者優先を守ったのが18例。クルマが停止したので会釈して横断歩道を渡っていた女性もいた。一方、クルマが先に発進したのが31例。横断歩道の真ん中まで進んでから急に立ち止まって車をよけた60代とみえる男性の歩行者や、横断歩道上で立ち往生する親子連れ(小学生と父親)も、また道路を横断しきれながら立ち止まって計4台をやり過ごした40代にみえた男性は足が不自由であった。

とくに危険と思われたのはクルマが2台連なってやってきたときで、前の1台が歩行者(10代とみられる男子学生)を



信号機のない小さな交差点におけるクルマの一時停止および横断歩行者の状況

| | クルマの一時停止 | | 計 |
|-------|----------|-----|-----|
| | あり | なし | |
| 歩行者あり | 18 | 31 | 49 |
| 歩行者なし | 70 | 109 | 179 |
| 計 | 88 | 140 | 228 |



無視して徐行で通過。その後、この歩行者が後続のクルマの直前を横断。後続車が慌てて停止した。さらに、交差点で一時停止したクルマが動き出すのとほぼ同時に、クルマの斜め横断しはじめた男子学生も見かけた。お互いの「止まるだろう」「譲るだろう」の勝手な予測が引き起こした危険なケースといえる。

自転車は、観察したほぼすべての自転車が一時停止は行なわず徐行のみで交差点を通過していた。まったく徐行せずに交差点を通過した男性(若者2名・高齢者1名)もいた。交差点を通過する際に、ベルを鳴らした自転車は1台のみ。大事には至らなかったものの道路を逆走した

PROPOSE

バイクが1台、スクートボードで通過した男子学生もいた。このほか、四輪車同士のニアミスも数例観察された。



「気づく」から「気づく」 思いやりのある運転を

今回観察した信号機のない小さな交差点では、ドライバーは二輪や四輪の存在をカーブミラー等で確認したあとは徐行のみでそのまま交差点を通過してしまっただ。ドライバーの意識のほとんどは車両同士の出会い頭の衝突を避けることに注がれており、歩行者は無視される傾向が強かった。

歩行者には子どもから高齢者、体が不自由な人などもあり、自分の身の安全を守るために横断歩道を渡っている。また、子どもや高齢者のなかには予想外の行動をこる人もいる。ところが、ドライバーのなかには歩行者に対する気遣いが希薄で歩行者の存在を認めながらも自分が先に発進してしまう例が多い。横断歩道等での一時停止は面倒だといふドライバーの意識や油断が原因で事故につながるため、注意が必要だ。交通ルールを守るのは当然として、ほんの数秒停止しようといふ心のゆとり、歩行者を思いやる気持ちが必要なのではと思われた。